

授業実践研究

## 国語科 授業実践研究部

研究主題

主体的・対話的で深い学びを実現するための活用するICT  
～充実した言語活動の中で、自信をもって  
話し合いに臨む児童・生徒の育成～

安松小学校	猿橋 史歌 (リーダー)
所沢小学校	松前 千晴
明峰小学校	中島 拓弥
松井小学校	飯田 実花
所沢中学校	粕谷 昌吾
東中学校	小野寺由梨

担当指導主事  
加藤 法祥

## 国語科授業実践研究部

### I 研究主題

主体的・対話的で深い学びの視点からの指導の工夫  
～ 充実した言語活動の中で、自信をもって話し合いに臨む児童生徒の育成 ～

### II 研究主題について

本研究を開始するにあたり、研究員の所属校でアンケートを実施した。その結果から「失敗を恐れ、不安を抱えている児童生徒が多い」ことが分かった。このことから、日常生活における他者との関わりの中で、「伝え合う力」を高めさせていきたいと考えている。新型コロナウイルス感染症対策を講じている状況下のために話し合い活動が上手く進められない中であっても、対話によって自分の考えを広げたり深めたりする場面をできる限り設定し、児童生徒が考える場面と教師が教える場面とのバランスを取りながら、授業を進めていきたい。グループワークで自分の考えや意見を伝える場を設けることで、自信を持って交流できると考えた。また、意見を共有することで、自分の意見を広げることができると考え、本研究主題を設定した。

### III 研究の内容と実践例

#### 1 研究の方向性

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、言語活動を充実させ、児童・生徒に自信をもたせるための手立て

#### 仮説1

自分の考えをもち、自信をもって表現することができるような教材・資料やワークシートなどを工夫することで、誰もが主体的に話し合うことができ、深い学びにつながるだろう。

#### 手立て1

教材・資料の工夫

#### 言語活動

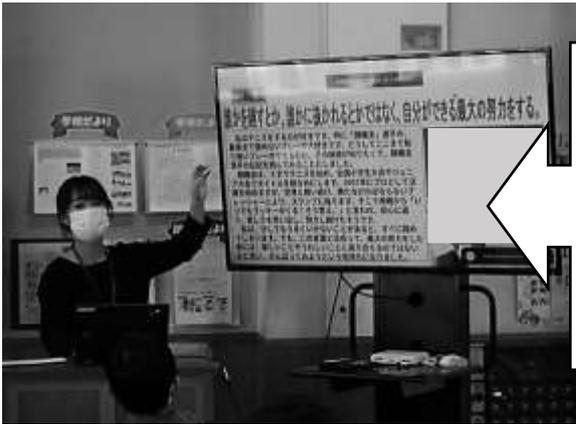
・本のショーウィンドウ ・名言集



#### ☆単元のゴールを最初に提示すると（本のショーウィンドウ）

単元の導入時に『本のショーウィンドウ』を最終的に作ることを伝え、見通しを持たせた。ショーウィンドウに書くことが明確になると、「物語の魅力的な表現」と「心にグッときたところ」を意識しながら読み進める児童が増えた。

【小学校第5学年：「大造じいさんとガン」】



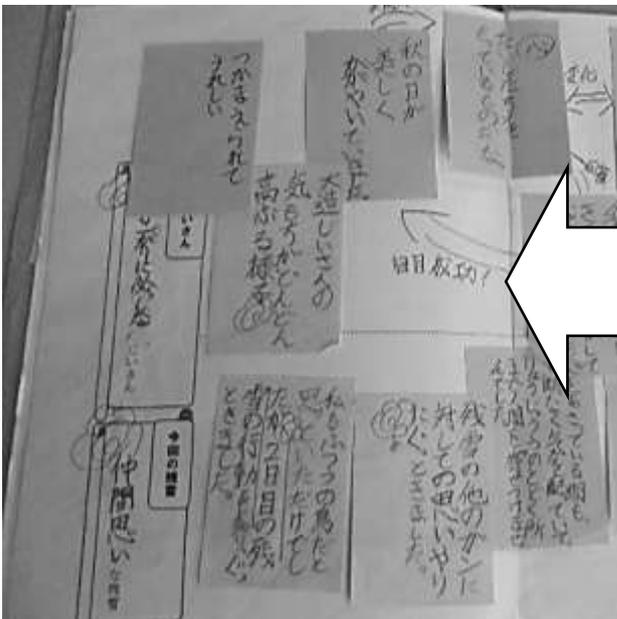
☆単元のゴールを最初に提示すると（名言集）

本時の学習の必要感をもたせることができ、見通しをもって主体的に学習に取り組むことができた。また、ゴールが明確なので、児童生徒同士も自信をもって助言をすることができる。

【小学校第5学年：「やなせたかしーアンパンマンの勇気」】

手立て2

ワークシート、思考ツールの工夫



☆付箋で色分けすると

- ・「情景描写、心情描写、動き」は青い付箋、「自分の心にグッときたところ」は赤い付箋、「友達の考えで良いと思ったところ」は黄色の付箋で書いてワークシートに貼り、叙述を基にしながら大造じいさんの気持ちを考えたり、その後の物語を考えたりした。
- ・色分けをすることで、何について書いたり、話し合ったりしているのか視覚的に判断することができた。
- ・友達の意見を黄色い付箋で書いたことで、自分の考えと比較することができ、考えを広げることができた。

【小学校第5学年：「大造じいさんとガン」】



「ううむ。」  
「ううん。」

「〜」場面にかけて、残書どのかか

違

同じ 人 ↓ 人  
違う 人 ↓ 人

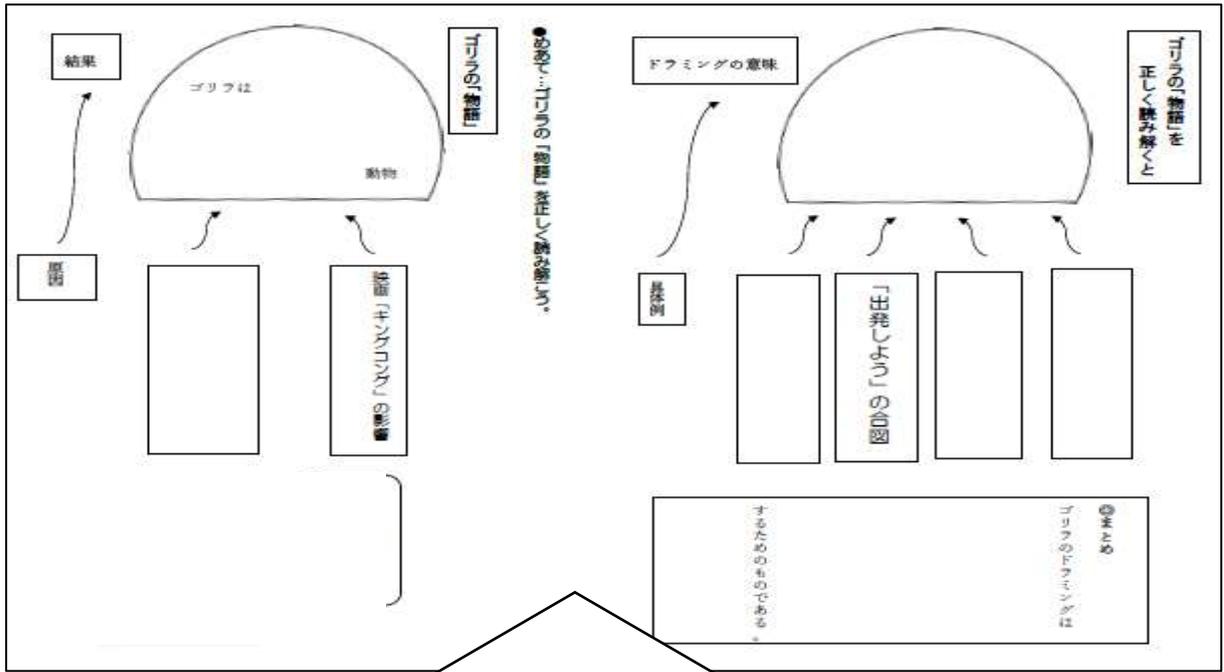
同じ

うなぎつりばり作戦の「ううむ」とタニシ作戦の「ううん」の大造じいさんの言い方を考え、第一場面と第二場面の大造じいさんの心情を考えよう。

☆立場を明確にすると

- ・大造じいさんの「ううん。」の言い方が「ううむ。」と「同じ」か「違うか」の判断を児童にさせることで、自分の立場を明確にして、話し合いに取り組むことができた。

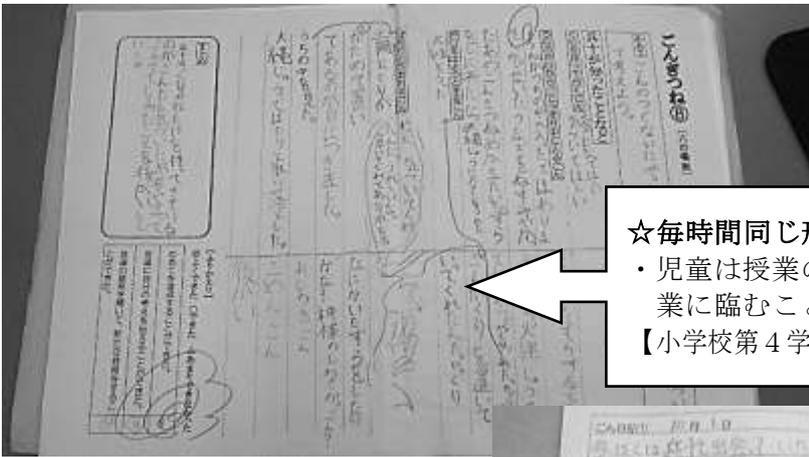
【小学校第5学年：「大造じいさんとガン」】



**☆クラゲチャートを使うと**

- ・完成した際に関連が分かりやすい。
- ・文を短くまとめることで、要点をまとめる力がつく。
- ・やる事が明確になり、個人の問題意識が高まる
- ・チャートにまとめておくことで、学習を振り返る際に要点が分かりやすい。

【中学校第3学年：「作られた『物語』を超えて」】



**☆毎時間同じ形式のワークシートを使うと**

- ・児童は授業の流れが分かり、見通しをもって授業に臨むことができた。

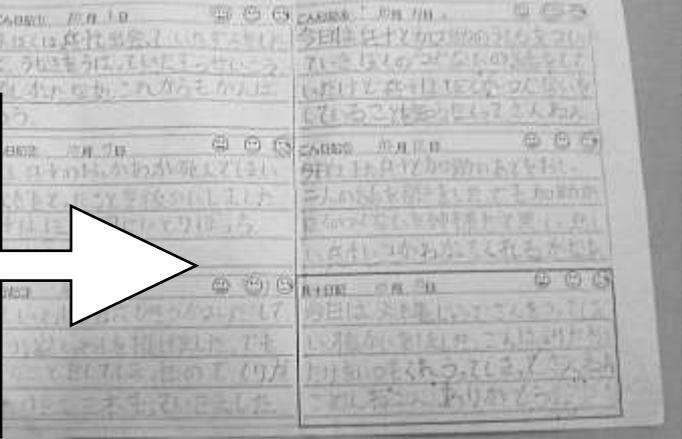
【小学校第4学年：「ごんぎつね」】

**☆日記を活用すると・・・**

場面読みの終わりには、読みを深めるためにごんの気持ちを、「ごん日記」にまとめさせた。

ワークシートと別にする事で、場面ごとの細やかな気持ちの変化を読み取ることができた。

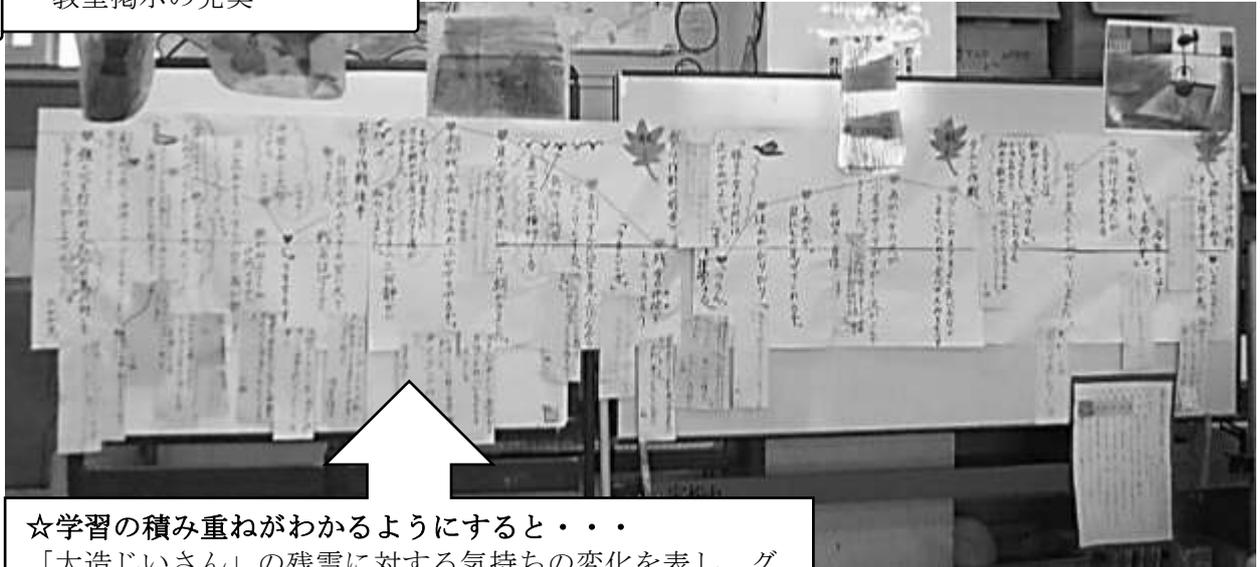
【小学校第4学年：「ごんぎつね」】



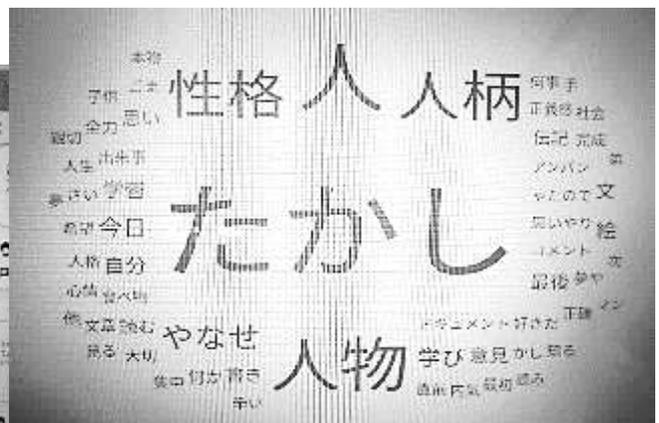
## 仮説 2

教室掲示を整えたり、多様な発表の機会や交流の場を設定したりすることで、他者の考えや意見をもとに多面的に検討したり考えを広げたりすることができ、対話的で深い学びにつながるだろう。

### 手立て 1 教室掲示の充実



☆学習の積み重ねがわかるようにすると・・・  
「大造じいさん」の残雪に対する気持ちの変化を表し、グループで交流して発表したものを教室に掲示し、前時の振り返りの際に活用した。  
【小学校第5学年：「大造じいさんとガン」】



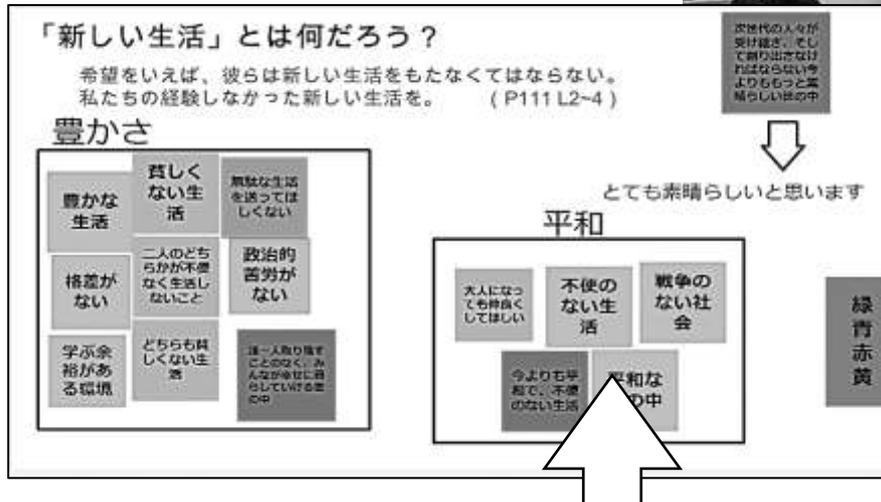
☆教室掲示が難しい場所では

- ・ スクールタクトを活用し、前時のワークシートを提示することで、短時間で前時の学習を振り返ることができる。
- ・ ワードクラウド等のICTを活用すると、学級全体の意見を集約しやすい。

【小学校第5学年：「やなせたかしーアンパンマンの勇氣」】

## 手立て2

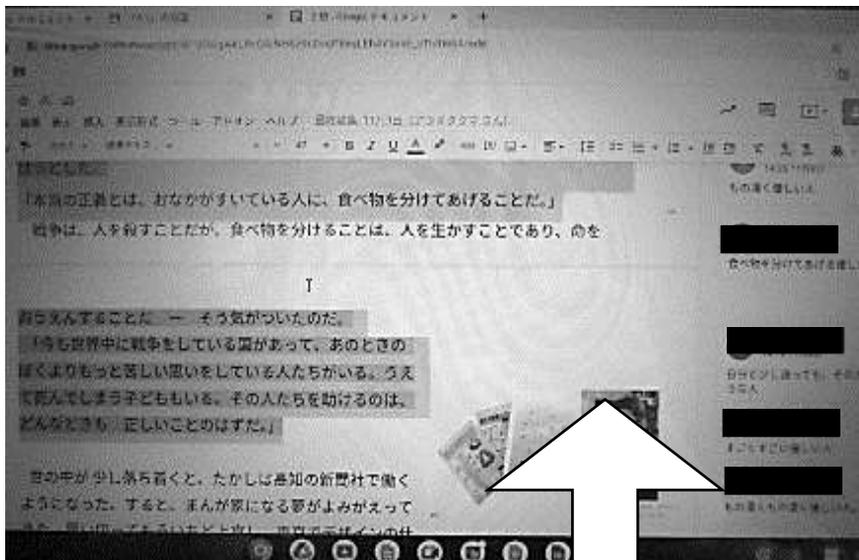
発表の機会や交流の場の工夫



### ☆ジャムボードを活用すると

- ・ 3～4人の小グループで話し合い活動を行うことができ、自分の考えを相手に伝えることが苦手な生徒も、自分の考えを書くことができる。
- ・ 囲みや矢印を使うことで、話し合いの中で考えをまとめたり関連付けたりしやすくなる。
- ・ テキスト機能を使って他の生徒の読み取りに対してコメントすることもできる。

【中学校第3学年：「故郷」】



### ☆コメント機能を活用すると

- ・ 叙述をもとに、たかしがどんな人物か考える学習では、グーグルドキュメントのコメント機能を活用した。
- ・ 友達がどの叙述に線を引いているか、そこからどんな人物だと考えているかリアルタイムで分かるので、全ての児童が考えを持ち、意見を交流することができた。

【小学校第5学年：「やなせたかしーアンパンマンの勇気」】

## IV まとめと課題

### 1 成果

#### (1) 仮説1において

- ・教材・資料の工夫では、児童生徒がゴールの見通しをもてたことで、話合いの道筋が明確になり、活発な話合いになった。
- ・単元を通して統一されたワークシートを使ったり、立場が明確化されたワークシートを使ったりしたことで、児童生徒は自分の考えに自信を持って学習に取り組むことができた。

#### (2) 仮説2において

- ・授業後の感想から

以下は、話合い活動を行った生徒の振り返りの内容であり、波線部は特に話合いに対する生徒たちの反応が表れている部分である。【中学校第3学年：「故郷」】

生徒A「今回の授業では当時の中国は戦時下で騒がしく、魯迅は仲間が殺されてもなんとも思っていないさそうだった中国人の改革をするためだとわかった。他の人の発表はほぼ同じものを調べたはずなのに考え方の違いや感じ方の違いを改めて感じた。魯迅に関しては精神を治すために医者をやめ作家になった決心と努力がすごいと思った。」

生徒B「他の人は意見が少し違うのも、発表の良いところだと思った」

生徒C「他の人の意見と同じ考えの物もあって面白かったです。また、今回の授業で希望や新しい生活を抱く大切さを発見しました。」

生徒D「魯迅の一生を調べたことで魯迅が当時の中国において偉大な平和主義者であったことがわかった。また、友達の発表を聞いて新たな考え方等を知れたので面白かった。」

生徒E「今回の授業で、教科書からは読み取れないことから話の背景がわかったり、このお話が書かれた理由などがわかるんだとわかりました。他の人は、教科書の表現と繋げて考えられていてすごいと思いました。」

これらの振り返りから、生徒は授業で行われた話合い活動を通して他者の考え方に触れ、新しい視点を得るきっかけとしたり、自分の考え方を深めたりすることができたと考えられる。例えば、生徒Eは他の生徒の発表内容から、より良い読み取りの方法に気付くことができた振り返っている。他にも振り返りの中には「話し合いが楽しかった。」「様々な人の意見を知ることができてよかった。」という記述が多く、話合い活動が生徒の学習意欲を伸ばさせていると考えられる。

- ・教室掲示を充実させることで、学習の積み重ねが明確になり、児童生徒は既習事項を確認しながら話し合うことができた。
- ・ICTを有効に活用して、発表の機会や交流の場の工夫をすることで、他者の考えや意見を尊重しながら、話し合わせることができた。

### 2 課題

- ・思考ツールを活用すると、思考の整理にはなるが、その後の話合い活動の際には活かしきれなかったため、目的に合った思考ツールを考え、活用方法を探求していく必要がある。
- ・話合い活動が伝え合いになり、考えを深めさせるまで指導ができなかったため、児童生徒の話の聞き方や、教師の声かけ、関わり方について研究を進めていく。